

分野	授業科目	単位(時間)	進 度	担 当
専門分野	地域・在宅看護援助論Ⅰ	1 (30)	2年後期	開田ひとみ・齊藤洋子 実務経験あり
科目目的	さまざまな地域で生活する人々を総合的に理解し、対象者のニーズや生活の質を考え、のぞましい状況に向かうための社会資源活用や看護介入が理解できる。			
科目目標	1. 在宅看護介入の各時期の特徴を理解し、必要な看護援助を学ぶ。 2. 在宅で療養する対象の状態に応じた看護と社会資源活用の基本が理解できる。			
単 元 名	教 育 内 容	時間	教育方法	担 当
1. 地域・在宅看護における安全性の確保	1) 24時間連絡体制、相談・訪問 2) リスクマネジメント、感染管理 3) 災害時の対応	3	講義	開田
2. 地域・在宅における看護介入時期別の特徴と関わり	1) 在宅看護導入期 2) 在宅療養開始初期 3) 在宅療養安定期 4) 在宅療養終了期 5) レスパイトケア	3	講義	開田
3. 地域・在宅療養者の状態別看護(難病在宅看護)	1) 神経難病の特徴と療養の経過 ALS、パーキンソン病 2) 難病対策要綱 3) 家族への支援	14	講義	開田
(障害者在宅看護)	1) 障害に応じた看護 (1) 身体障害：脊椎損傷 (2) 精神障害：統合失調症 (3) 住環境調整 (4) 生活拡大への援助			
(高齢者在宅看護)	1) 認知症の特徴と療養の経過 (1) 日常生活自立度・要介護度 (2) 家族への支援：老老介護 (3) 権利擁護の制度 ①日常生活自立支援事業 ②成年後見制度	2	講義	齊藤
(小児在宅看護)	2) 独居高齢者への支援	2	講義	齊藤
(終末期在宅看護)	1) 発達や教育を踏まえた援助 2) 家族への支援 3) 子どもの療養生活を支える援助 (1) 小児慢性特定疾患 (2) 先天性障害	2		開田
4. まとめと試験	1) 終末期を迎えた疾病の特徴と療養の経過 2) 自己決定への支援 3) 家族への支援(デスエデュケーション・遺族ケア) (1) 24時間支援体制 (2) 疼痛管理、症状マネジメント、急変時の対応	2		開田
テキスト/その他の教材	系統看護学講座「地域・在宅看護の基盤」「地域・在宅看護の実践」(医学書院)			
評価方法	筆記試験(開田80点・齊藤20点)とレポートなどから総合的に評価する			